

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

加古川市立野口北小学校

本年度実施しました全国学力・学習状況調査の結果を分析いたしましたところ、本校では以下のよう傾向が見られましたのでお知らせいたします。

1 結果の概要とまとめ

【国語】

(1) 結果の概要

正答率の高低傾向は全国平均の様相と似通っていました。知識及び技能領域の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱いに関する事項」と、思考力、判断力、表現力の「読むこと」に関わる領域の平均正答率が高くなっていました。昨年まで後半の問題で無解答率が上がるのが課題でしたが、今年は大幅に改善しました。

正答率が下がるとともに、無解答率が少し上がっており、一方「書くこと」に関わる領域の記述式問題では、課題が表れていました。問題は、本文から引用した上で、自分の考えが伝わるように工夫して書き表すことができるかどうかをみる内容でした。誤答した児童の多くは、引用していなかったり、引用した部分と自分の考えの部分を区別して書くことができなかったりしたと考えられます。ただ、記述式の問題にも正答率が高いものがあり、一概に「書くことが苦手」と見ることはできませんが、他の解答形式に比べ、記述式問題で無解答率が上がっていることは指導課題ととらえました。

(2) 結果を受けて

書くために読む、調べるために読むなど、目的に応じて文章の中から必要な情報を読み取り、再構成する力が求められています。国語科はもちろん、他の教科指導においても探究的な学習や様々な資料を読み取る活動なども一層取り入れ、多様な「書く」言語活動を設定していきます。

また、読んだことをもとに自分の考えをまとめるためには、文章の内容や構造を捉え、整理しながら考えたり理解したりする必要があります。そのために、既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを説明する力（話す、書く力）を、協同的探究学習等により引き続き育んでいきます。

【算数】

(1) 結果の概要

正答率の高低傾向は全国平均の様相と似通っていました。本校では、直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる問題や、整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる問題で正答率が高くなっていました。一方、数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる問題や、百分率で表された割合と比較量（くらべる量）から、基準量（もとにす

る量)を求めることができるかどうかをみる問題(割合の学習内容)で、正答率が低くなっていました。また、理由や根拠を指定の条件を使って説明(記述)できるかどうかをみる問題でも低くなっていました。

このことから、基本的な知識は身に付いているが、知識をもとに考えを整理し表現する力に課題があると考えられます。

(2) 結果を受けて

算数においてつまづきやすい3つの重要なポイント―「四捨五入と概数」「割合(もとにする量を求める)」「条件指定の記述・説明」が課題であることが表れていました。

4年生で学習する「四捨五入と概数」については、正しく位を捉えるために図を用いたり数直線を活用したりして理解と共に数的な感覚を養います。「買い物で代金を見積もる」「人口を伝える」など、生活場面と結び付けて数量を扱う活動を積極的に取り入れます。目的に応じて切り上げ・切り捨て・四捨五入のどれを選択すべきか考えることで、概数を使う良さを実感できるよう指導していきます。次に、割合(5年学習内容)では、低・中学年のころから数量をテープ図や線分図に表す活動に親しませ、基礎を養います。その上で、高学年で、数量を二重数直線や関係図に表す活動を重ねることで、数量関係を整理し、正しく捉えられるようにしていきます。

こうした知識と理解を高める授業でも、公式に当てはめて繰り返し問題を解くだけでなく、自分の考えを表現し伝え合ったり、自他の意見の共通点や相違点に着目し、公式やきまりを見つけたり深めたりする協同的探究学習を積極的に取り入れます。

2 児童質問調査から見えること

質問の内容は、「基本的生活習慣」「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感」「学習習慣、学習環境」「地域や社会に関わる活動の状況」「ICTを活用した学習状況」「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業に対する取組状況」「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳」「学習に対する興味関心や授業の理解度」「国語」「算数」「英語」の11観点73項目と、学力調査に関する解答状況について問う4項目でした。

(1) 結果概要

「早寝、早起き、朝ごはん」に例えられる基本的生活の習慣化が高い傾向にあります。SNSや動画視聴をする時間(ゲームを除く)は、一昨年の約3倍に増加しています。これは、テレビの視聴時間がSNS等の利用に移っているためだと推察されます。

「自分にはよいところがある」や、「先生によさを認めてもらえている」「人の役に立つ人間になりたい」「将来の夢や目標をもっている」の項目について肯定的な回答を児童はしています。しかしながら、普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが多いと感じる一方で、自分と違う意見について考えることや人と違う意見を言うことに消極的な傾向が表れています。また、友達関係についての満足感もやや低い傾向です。

加古川市では『家庭学習の手引き』の中で、高学年の家庭学習時間の目安を「60～90分」として示しています。回答によると、半数の児童が目安時間の学習を行っています。日々の宿題は、30分程度の内容ですので、自主勉強に取り組んでいる児童がいると考えられます。

（２）結果を受けて

昨年に引き続き、低学年のころから、最後まで考え取り組む習慣を育てることが必要だと話し合いました。また、学校生活の中で読書時間の確保も継続します。（昨年度から、通年の取組みとして市立図書館から学年文庫用に約 720 冊の本（学年 120 冊）を借り受けています。）

また、多数の児童が、自分のよさを自覚し、先生から認められていると実感する一方で、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という問いに対して、一定数の児童が否定的な回答を示していることは重要なサインとしてとらえています。友達のよさに気づき、自分のよさを見つめなおす「キラキラの木」の取組のように、友との絆を深めることができる活動を考え進めていきます。また、学級担任だけでなく、専科をはじめとする担任以外の教師も積極的に声をかけ、児童一人一人との関係を育みます。消極的な心情には、勉強のつまずきも原因の一つと考えます。意欲を引き出し、わかりやすい授業づくりに取り組みます。

３ 引き続き取り組むこと

本校は、学校教育目標に「こころ豊かに、自らの力で未来を切り拓く子の育成」を掲げ、教育活動を進めています。また、研究主題を『表現することを通して学びを深める子どもの育成～「学び合い」で考えを深め、「わかる学力」を育む授業づくり～』として、「協同的探究学習」の理念に基づく授業改善に取り組んでいます。

授業では、考えを記述し、根拠や理由を説明する活動を積極的に取り入れると共に、主体的に学ぶ態度と「わかる学力」の向上に取り組んでいます。ICT を生かした学習活動も、効果的で適切な方法を取り入れながら進めていきます。

子どもたちの学力の向上には、健康・体調管理の面、基本的な生活習慣や学習習慣の確立等、学校だけでは力の及ばないこともあります。学校と家庭が連携し、子どもたちの学力向上と健全育成をめざしていきたいと考えます。

今後とも、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。